

**第2回エコエリアやまがた推進コンクール
優秀賞（山形県農業協同組合中央会長賞）**
※掲載している情報は平成19年度時点のものです。

名 称	最上町アスパラガス生産協議会		
所 在 地	最上町		
1. 当該生産協議会の概要 (平成18年度実績)			
戸 数	対象作物	作付面積	うち環境保全実践面積
78戸	アスパラガス	22ha	22ha
2. 取り組みの背景・経過等			
①取り組みの背景			
<p>最上町は背後に奥羽山脈を控える中山間地で、古くは小国駒の馬産地であり、水稲と畜産を組み合わせた農業経営が主流であった。</p> <p>水稲の生産調整が必要となるにつれ、地域の気象条件に適応した花卉栽培、いら栽培、菌茸栽培、そして冬期間の生産を可能とする山菜の促成栽培等も取り組まれるようになった。</p> <p>しかし、水稲については平成5年の大冷害、その後平成15年にも再び冷害に見舞われ、水田を畑地化しながら、園芸作目の取り組みの拡大を通して農業経営の安定化を目指すことがより急を要するようになった。</p> <p>一方、町内4千頭に及ぶ牛の飼育において、糞尿の適正処理を期す畜産環境保全の要請も一層強いものとなって来ていた。</p> <p>そこで、最上農業技術普及課産地研究室により栽培技術が確立されたアスパラガスの長期立茎栽培が、最上町の気象条件により適合し、畜産部門から供給される堆肥の有効活用を通して、土づくりに立脚した栽培の推進を可能とするものと捉え、平成16年度に43名の農家はその取り組みを開始した。</p>			
②発展の経過			
<p>平成16年度に、43名の農家がアスパラガス栽培に取り組みを開始し、最上町アスパラガス生産協議会が設立された。初年度の43名は一期生と呼ばれ、その後二期生、三期生が加わり、平成18年度にはその人数が78名となった。</p> <p>取り組みの一層の拡大や、生産効率の向上を目指す上で、団地化は有効な対策であり、三期生の中には、外部雇用を果たしながら、1.5haの栽培に取り組む農家も現れている。</p>			

3. 農業経営・技術と取り組み姿勢

(1) 環境に配慮した農業技術の実践と工夫

- ・生産者全員エコファーマーによる環境保全型農業の推進

最上町アスパラガス生産協議会が導入したアスパラガスの品種は、「グリーンタワー」。穂先が開きにくく、芽数が多い特性を有する。緑が濃く、品質に優れたアスパラガス生産を目指し、土づくりを徹底するために、最上町産の良質な家畜堆肥を十分に施用し、さらに毎年10a 当たり5t 施用している。併せて減化成肥料、減農薬を栽培に組み込み、生産者全員78名の農家がエコファーマーの認証を受けている。

- ・安全安心農産物生産の取り組み

ポジティブリスト制度施行に伴い、農薬の飛散防止を図るため隣接水田では粒剤施用及びアスパラガスほ場ではネットを張りドリフト防止に努めている。

また、生産履歴は全員が記帳しており、生産管理とリスク管理に努めている。

(2) 家畜排せつ物、稲わら、食品残さ、農業用廃ビニール等のリサイクル利用の実践と工夫

- ・家畜排せつ物やアスパラガス茎葉の再生利用

最上町アスパラガス生産協議会が目指すアスパラガス栽培において、家畜堆肥の有効活用が大きな意義を有しており、その事が品質に優れ、食味に勝るアスパラガスを生み出している。

家畜堆肥の施用において、最上町アスパラガス生産協議会の設立と同時に、畜産農家が集い、堆肥供給散布を実施する「最上町堆肥散布組合」が発足し、耕畜連携が一層強化された。最上町堆肥散布組合の活動は、地域の稲わらや籾殻の循環をもより促す結果となっている。

また、アスパラガスの立茎した茎葉が大量に発生し、その処理が課題になっていることから、堆肥のストックヤードを活用した堆肥化実証を行っている。

- ・アスパラガスを利用した新商品開発

最上町は水源地帯であることから、アスパラガスの規格外品と切断残渣を利用して、環境に配慮した化粧品や石鹸（商品名：もがみ美人）や洗剤（商品名：最上川に還る）を開発し、現在温泉旅館等でモニター調査を行って利用者からは好評を得ている。

- ・廃ビニール等の適正処理

JA と連携し、適正処理を徹底している。

(3) 温室効果ガスの排出の抑制、オゾン層破壊物質である臭化メチル削減等を含む先進的な環境保全型の農法の実践と工夫

堆肥を10a 当たり5t をマルチして、雑草抑制（除草剤を使用しない）、地温の保持、土壌改良、有機物施用など多目的に利用している。

(4) 持続的な環境保全型農業の実践と経営確立

最上町の中で、アスパラガス栽培農家と畜産農家が強く結び付き、土づくりの徹底によって、収量の面、品質の面で高いレベルを目指している。環境保全型農業の追求

は、減農薬、減化成肥料を促す効果はもとより、マーケットからは色乗り、食味に優れたアスパラガスへの評価が高く、価格向上が高収益をもたらし、農家経営の向上に貢献している。

4. 周辺等への影響力・普及力

(1) 創造性・地域的な影響力

アスパラガス栽培農家が土づくりを徹底して実践することにより、畜産農家の組織する「最上町堆肥散布組合」が畜産環境保全に取り組みやすくなっている。また、アスパラガス生産の高い実績が、にらやたら芽栽培農家にも改めて土づくりの大切さを認識させる結果となっており、家畜堆肥の活用が拡大し、にら栽培農家もエコファーマーの認証を受けるに至っている。

(2) 消費者等との交流、食農教育・環境教育への参画等を通じた地域の活性化と地域社会発展への貢献

協議会員は地域の産直施設にもアスパラガスを供給し、学校給食等にも地産地消メニューとして登場している。町には温泉地が有り、旅館においてもアスパラガスは観光客に提供され、最上町ならではのネットワークが活用されている。

また、消費者に直接圃場に足を運んでもらいアスパラガスの収穫体験や交流会を開催している。さらに、新庄北高等学校最上校では野外学習でアスパラガスを栽培しており、食農教育や環境教育も推進している。

(3) 地域の農業資源保全と活性化

水稻の生産調整により活用された転作田が、連作障害により遊休化する傾向にもあったが、アスパラガスという新しい作目の導入により改善し、収穫年数が10年にも及ぶ宿根性の特性が安定した農地利用に貢献している。

5. その他特記事項

アスパラガス栽培への取り組みは、皆が一年生という観点に立ち、協議会員が皆で共同播種を行い、圃場の整備については、熟練したオペレーターが全ての箇所に対応しながら、高いレベルで生産基盤の統一を図っている。

共同防除の徹底等、栽培技術の統一はもとより、JA新庄もがみが整備した野菜集出荷施設により共選共販体制が確立し、厳格な規格選別がマーケットの強い信頼を得るに至り、値決めによる引き合いも一層強くなっている。

6. 取り組みの成果と展望

アスパラガスは園芸作物の一品目であるが、協議会員同士の強い連携や短期間での生産拡大の実績は町の農業はもちろん各方面に大きな勇気を与えている。販売実績は、平成18年度7、800万円で、平成19年度は、出荷開始三年目となるが、販売額は一億円を超えることが確実視されている。

主に、耕畜連携により展開する徹底した土づくりが、色乗り、味わいに優れたアスパラガスを生み出し、市場マーケットの需要を日に日に拡大している。

共選体制における雇用の創出、そして協議会員自身の圃場における雇用も拡大しており、幅広い地域経済の振興につながっている。

アスパラガスの加工品の開発についても、農業部門の枠を越えた地域振興の方策とし

て、現在その取り組みが行われている。

アスパラガスは元気の源“アスパラギン酸やグルタチオンを豊富に含むことから住民の健康にも寄与して元気になり、今後の地域全体の活性化に大いに貢献することを目指している。